

第4回伊勢原市青少年育成審議会 会議録

〔事務局〕 子ども部青少年課

〔開催日時〕 平成28年9月29日(木) 午後7時～9時

〔開催場所〕 伊勢原市青少年センター 2階 工芸室

〔出席者〕

(委員) 芦原秀人、冨塚 正、山元朋美、若松 操、吉田幸代、錦織 勝、
平田順子、河口友喜、峰 孝一、小澤寛治、上條茉莉子、青木清徳、
高橋一枝

(事務局) 子ども部長、青少年課長 外1名

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0名

《審議の経過》

1 開会

(事務局) 青少年課長あいさつ

(会長) あいさつ

2 議事

(1) 報告事項

いせはら未来っ子クラブ (たけぞの教室) について

○事務局から平成28年10月27日から事業を開始するいせはら未来っ子クラブ (たけぞの教室) の事業概要について説明。

(会長) 放課後子ども教室竹園小学校区について、まず私から質問します。
竹園小学校の応募者は約100人ですが、全校児童は何人ですか。

(事務局) 529人です。なお、石田小学校はおおよそ520人で、130人
応募がありました。また、伊勢原小学校はおおよそ670人で、90
人応募がありました。

(会長) 保護者が迎えに来るとなっていますが、「都合で来られない」、「子ども同士で帰っていいか」、「誰かにお迎えをお願いしたい」等の質問はありましたか。

(事務局) そういった意見もありましたが、まずはお迎えに来ることができる人を親族3人までとしました。友達のお母さんなどはお迎えの対象としません。

- (会 長) 震災などの場合と同じように考えたのでしょうか。
- (事務局) 震災を想定した小学校の引き取り訓練を参考に考えました。
- (委 員) 活動サポーターは60代、70代の方が多いとのことですが、シルバー人材センターの方ですか。
- (事務局) シルバー人材センター以外の方が多くいます。地域の方から応募をいただいています。
- (委 員) 竹園小学校は家庭的な雰囲気があります。例えば、どんど焼きがある時は、学校が少し早く帰してくれるなんて聞きました。
- (委 員) 車の送り迎えについてはどうなっていますか。
- (事務局) 学校のやり方を踏襲しています。基本的には徒歩か自転車をお願いしています。今後様子を見ていきたいと思います。
- (会 長) 200人位希望があったのに、実際の応募者が95人になった理由は何ですか。
- (事務局) 希望を取った時には、放課後子ども教室ができたなら「参加する」、「参加しない」という二者択一の回答にしたので、気軽に回答いただいたのかもしれませんが。
- (委 員) 送迎がネックになったかもしれません。
- (会 長) 竹園小の父兄や子ども達はこれから参加になりますが、伊勢原小や石田小の事業の感想や評判は聞いているのでしょうか。
- (委 員) 地域をまたいで活動している団体の中で評判を聞きました。
- (会 長) ロコミですね。
その他は無いようですので次の議題に進みます。

(2) 協議事項

子ども、若者を育てる地域社会づくり（子ども会、放課後子ども教室のあり方）～人材バンクの運営について～

○事務局から

- ・子ども会と放課後子ども教室の課題や理想の実現に向けた策として、第3回審議会にて提案した「公民館地区単位の人材バンク」の運営形態として、①市直営実施、②市委託事業で実施、③市民提案型事業で実施の3つの方法を提案し、最も適切な方法は何か等について協議を依頼した。
- ・協議の参考として、平塚市「知恵袋バンク」、伊勢原市「市民提案型事業」、大田区小学校PTA「ボランティアセンター」の事例を紹介した。

(会 長) 事務局から説明のあった運営形態案として、3つの方法のいずれが

適当か、またはその他適当な方法があるか話し合っていこうと思います。質問を含めて意見を出してください。

(委員) 人材バンクの運営について、実施を想定している公民館に話が伝わっているのでしょうか。

(会長) これから皆様で協議をしていきますので、公民館にも地域の人にも話は伝わっていません。

(委員) 公民館は独自の活動をしています。そこにこの事業がプラスされると今まで以上に業務量が増えて、公民館主事の負担が多くなるなど、不安があります。

(事務局) いろいろと負担は出てくると思いますが、実際に平塚市の公民館で実施しているので、よい形で進めていければと思います。

(会長) 人を集める方法をどうするかということで、どの方法にもメリット、デメリットがあります。これがよいだらうという運営形態を今日決めたいと思います。

(委員) 平塚市の公民館職員は、2, 3人と伊勢原市よりも多いと思います。

(委員) 大きい市だから規模が違うと思います。

(委員) 厚木市の視察の中で、ジュニアリーダーが卒業した後も、引き続きいろいろな活動に取り組むという話がありました。伊勢原市もジュニアリーダー卒業生を取り入れることなどを考えてはどうでしょうか。

確かに年齢の高い方の中には、高い技術を持った方がいらっしゃいます。ただ、若者同士の考え方と年を重ねた方との考え方は、全く違うと思います。相反するものもあります。

(委員) ①市直営で公民館主事が主体になる方法でも、②市委託事業として地域団体が主体になる方法でも、おそらく、地域の中から絶対反対という声が上がると思います。

(委員) 自治会長は地域の中で仕事が多いため、反対されると思います。

このため地区社協が主体になるのがよいと考えます。しかし、まとまった予算の確保が必要です。平塚市では、各地区に地区社協があり、予算も一定額が出ています。その中で自治会の人、民生委員・児童委員、青少年団体の人などが関わっているので理想的ですが、伊勢原市では予算がないのが実情です。

(会長) 予算が確保できれば、こういう方法も考えられます。伊勢原市の財政状況に関わってきます。

(委員) 市内7地区全てに地区社協を作れば、こういうものも意外と活動できると思います。

(委員) ②市委託事業で主体が地区自治会連合会というのがありました、

各自治会連合会の課題はありますか。加入率を高めるとか。

(委員) 加入率を増やすというのは難しい問題です。特に子ども会の加入率が少なくなっているのので、各地区の課題になっています。子ども達は子ども会に入っている、入っていないは関係なく夏まつり等の地区の行事に参加するので、その辺りも難しいと感じます。

(委員) 伊勢原市の自治会の加入率はよい方です。

(委員) 地域によって加入世帯数の差があり、会費として入ってくるお金に差が出ます。その中で運営するとなると、多いところからもらうのかどうかということも出てきます。お金がかかるとすると同一のお金を支払うことができないのではないかと思います。

(委員) 市内の少ないところは40世帯程度です。

(会長) 地域に密着した人が関わることができれば、一番よいと思います。子ども会等の問題にもスタッフがいないということがあります。若さというよりは、役員になると大変だから入らないという考えがあり、会に入らない。地域に密着した人の関わりはスタッフがいないことの解決になると思います。

また、先程のジュニアリーダーを集めていく方法も合わせてやるのはどうでしょうか。

(委員) いろいろな世代がいれば、いろいろな考えが出ます。そうするとよりよい意見も出ます。

(会長) 厚木市ではボランティア活動を活発に行っている学校がありました。ジュニアリーダーには入らないでボランティア活動をする結果、その地域のジュニアリーダーはいなくなります。ジュニアリーダーがいなくなるのは困りますが、地域で花を植えたり、活動で賞をとったりして、そのボランティア活動との兼ね合いはなかなか難しいです。

ジュニアリーダーの組織は今どうなっていますか。

(委員) 現在、成瀬ジュニアリーダーズクラブと伊勢原ジュニアリーダーズクラブの2つがあります。会員は多数いますが、実質動いているのは十数人位でしょうか。

(会長) 人材バンクが運営されれば、ジュニアリーダーも登録者として取り込んでいくことはできると思います。

では、どの方法が伊勢原市に合っているかということですがいかがでしょうか。

(委員) やって見ないと分かりません。絶対これはいい方法と思ってやっても、違ったということもあります。一つに絞るのではなく、いろいろな方法でやってみてもよいと思います。

- (会 長) では、方法を一つに絞らないことでいかがですか。
- (委 員) 賛成。
- (委 員) 人材バンクの運営は公民館地区単位を目指しているのですか。それとも市で一括して人材バンクを運営していくことを目指しているのですか。
- (委 員) これまでの説明で公民館単位だと思います。
- (委 員) 公民館によっては、地域住民が少ないところもあり登録者数が見込めません。市全体で人材バンクを運営して、パソコン等で一括管理した方がいろいろできると思います。
- (事務局) 想定としては、地区ごとに運営することを考えています。例えば、大山地区だけ、高部屋地区だけというふうに考えますが、今の話、地域の人数が少ないことについて言えば、隣り合う大山地区と高部屋地区と一緒にして運営するということも考えられます。
- (委 員) 私は規模が大きい方がよいと思います。
- (委 員) まず、こういう人がほしいのです、どこかにいませんかがあつて、次に登録という形になると思います。登録の前に求めているものを知るべきだと思います。
- (会 長) いかがですか。
- (委 員) これについては、実際に調べる必要がありますが、やってみないと分からないというところもあります。
- (会 長) 今日の会議の予定は人材バンクの運営形態について検討し、その他として子ども会や放課後子ども教室の話をして、共有化を図ろうと思います。
- 子ども会の状況を考えて、今問題になっているのは、加入率が減ってきているということです。その理由として、役員をやりたくないということで、関わる人の負担が大きいということです。これは加入者が減っている大きなポイントだと推測されます。
- (委 員) 参加する子ども達が子ども会の活動内容に魅力を感じてないというのが一番の理由だと思います。魅力のある活動をしていれば、スポーツクラブを休んでも参加しようという気持ちになると思います。
- (会 長) メリットというか、子ども会が行っている行事に興味があるかないかという問題もあります。ですが、自治会加入とも関係して、役員になりたくないから入らないということもあるから、そのスタッフをいかに集めるかということも大きなものだろうと思います。
- (委 員) 自治会の中に子ども会を取り込んで、地域の仲間ですから、地域の人達と一緒に活動できるような方策も必要だと思います。

- (会長) 子ども会もそうですが、お年寄りの方々の交流という点でも同じようなことが言えると思います。老人会はあっても、つながりが減っています。まずは、公民館単位でやった方が市全体でやるよりも負担の方も軽いのではないかと思います。皆さんは、市全体の方がいいですか。
- (委員) 市全体の方が引き継ぎもいずれはうまくいくと思います。小さい単位でやると、高齢化みたいなことが起こるでしょう。
また、市の職員がやれば、引き継ぎが確実だと思います。うまくいった段階で小さい単位に下ろしていくというのがいいと思います。
- (委員) なかなか大変な地域もあるようです。
- (会長) 今の意見は市で一括してやるということですね。進み具合で公民館単位に下ろしていくということですか。
- (委員) 進み具合に差が出てきて、地域によっては無理ですということも出てくる気がします。
- (会長) 整理しましょう。3つの案の中での方向としては①市直営型ですが、公民館単位でなく市全体でやろうという意見が出ていますが、どうですか。
- (委員) 思惑だけがひとり歩きして、実際のところは水面下で何にも行われないうまま、理想だけがひとり歩きしてしまうという気がします。
- (委員) 市では、この①②③の方法のいずれかが地区に設置されるとなった場合、例えば公民館、自治会連合会等に断られたらどうするのですか。
そうすると、市内に一カ所拠点を作っていくということになると思います。
- (委員) 公民館主事が一人のところは人員を増やしてほしいという話も出てくるかもしれません。そうなった時、人員の確保はどうするのでしょうか。
- (事務局) 今回は、放課後子ども教室や子ども会のスタッフ等の人材確保をどうするかという話し合いです。実際に各地区に人材確保をお願いするのはなかなか難しい点があります。放課後子ども教室や子ども会の支援者を探すということからすれば、青少年課の事務局でそういった分野の中で人材を探す、または子育て支援に関わる事業の中で支援者を教育するなりして、取り組む形で十分という感じがします。市全体の中で課題があつて、各地区で平塚市のような幅広い分野の人材探しというならば地区ごとに進めることができますが、今回は放課後子ども教室、子ども会の人材確保という観点から話し合っていますので、それに特化した事業の進め方が審議会の答えになるのではないかと考え

ます。

(会 長) 事務局からもありましたが、複数の方から市全体でやるという意見が出ています。その辺りどうですか。

(委 員) 別の考えです。具体的なニーズがあって、こういうことをやるからサポートしてくださいという具体的な形がないと人は集まりにくいと思います。

地域に根ざした活動に費用をもらい、こういう活動をやってみるといって提案を出してもらいます。ここは企画審査をして、その結果、具体的な方法が分かると思います。当然、企画の中にサポーターやシニアの方を集めるプランも含めて実施して、その方達のニーズとマッチングした事業を展開していきます。場所は公民館ですので、それほど負担をかけずにできるのではないかと思います。やる気のある NPO なり、自治会の方達で費用を出してもらえばできると思います。

(会 長) 新しい提案ですね。

(委 員) 今は①②③の方法の中で決めずにやってみたらどうでしょうか。多世代に関わる企画を提案してもらうのはどうでしょうか。

(会 長) 別の提案ですね。お金の援助があれば、やってみようという地域も出てくるということですね。余裕がないとできないかもしれません。

(委 員) 保護者にとって、放課後子ども教室に通ってくれば、その間、安心だというのがあります。たけぞの教室のようにお迎えをしないといけないとなると、働かなければならない人の場合預けられません。希望者は200人いたのに、実際の応募が100人位になったというのは、お迎えの問題があってあきらめた人もいます。その辺りが1番手を差し伸べるところだと思います。

(委 員) お迎えに来る人を3親等以内としないで、きちんと教育してこういう人なら大丈夫という認定制度を使ってみたらどうでしょうか。

(委 員) ファミリーサポート制度みたいなものがありますね。そういう人に送ってもらうような方法はどうでしょうか。

(委 員) ファミリーサポート制度を導入してお迎えをしてもらうこともできると思いますが、当事者達の信頼関係でやることです。もちろんトレーニングを受けたしっかりした人にやってもらいます。

(会 長) 人材バンクの案はそれを含めて、子ども達の面倒をみる人達を集める方法についてまず、話し合うわけですね。ここで先程の認定制度と市直営の人材バンクの2つの案を提示することはできますか。

(事務局) 皆さんが協議した結果を政策提言書にまとめていきますので、皆さんのからよい意見が出た場合、そちらにシフトしていくことはできま

す。

(委員) 3つの実施方法が出ているというということは、行政側でこのうちのどれかに絞るということを希望しているのでしょうか。

(事務局) 3つの提案の実施となると、現実的には難しい事情はあります。特定の方の募集を地域に分けてお願いするのは、なかなか難しいと思います。こういう子育ての分野だけでなく、他の分野でもその需要があるかどうかを確認してその必要があると分かれば、平塚市の人材バンクのような形の実施となるでしょうが、今はその確認をしないで、この方法で実施と決めてしまうのは難しいと思います。

(会長) いかがですか。

(委員) まずは、放課後子ども教室のための人材バンクとしてのスタートですか。

(会長) 子ども会も含みます。

私たちの協議の中心は子ども会や放課後子ども教室の人材をいかに集めるかですが、平塚市の人材バンクはそういったものを含めたもっと広い範囲の人材バンクですね。

(委員) 私はこれができるという人が登録しておいて、いろんな人をサーチして集めることができるというデータベースで、かなり広範囲です。

(委員) 今、子ども会のない地域もあります。魅力ある子ども会を組織するには、いろいろなところで改革する必要があります。ないところはなくていいという問題ではないと思います。

子ども会のそのものの組織を見直し、その中で人材バンクについて検討していく必要があると思います。人材バンクを作って、あまり活用されないのは問題です。

(会長) 市全体でやると、自分は地域と関係ないというイメージがつくと思います。地域の人が地域の子ども会や子どもと関わるのではなく、市全体として各地域のサポートをすると地域に対する意識が遠くなる気がします。

私の場合は、住んでいる地域をサポートしたいと思います。公民館で何かをやるとなれば、知っている子どもがいる地域に協力したいと考えます。地域の人材バンクの方がより継続したものができると思います。しかし、先程の話し合いで、それでは負担が大きいし、公民館にも負担がかかるから、市全体でという意見にそうだとも思いました。

(委員) どんなことができるかという点で考えると、例えば、茶道のできる人がほしいがこの地域にはいないとなると、住んでいる地域の中から

ではなく、広い範囲で探すと多くの人を見つけることができ、選択肢も増えます。教える側も受ける側も選べることができます。

(会長) 自分の地域の子どもに茶道を教えたいが、地域には茶道を教えることができる人材がない。そこで別の公民館から探すことができると、地域のつながりができます。

皆さんも地域の団体から代表として出ていますが、それだけでなく、市全体の他地域の人の集まりの中でつながりがあります。だから、公民館を中心にやっても同じことになるのかと考えます。しかし、広報活動などは、市全体で考える方がうまくいくでしょうね。

(委員) 継続できるかということです。

(会長) どうでしょうか。この3つの人材バンクの方法の中で公民館単位でなく市直営でという形で進めてもよろしいですか。

(委員) ～全員同意～

(会長) では、1つ決まりました。また、認定制度のような活動をするプロジェクトにいくらか費用を出して実際にやってもらい、うまくいった場合に拡大するという形もつけるのはどうでしょうか。

(委員) 市から費用が出るのはいかがかと思います。また、市民に関心があるかどうかもあります。他市との情報量の違いや伊勢原という地域の特性があり、同じではありません。

(委員) 伊勢原の地域性はあります。独自でいいと思います。

(委員) 子ども会を活性化し、多世代の交流のコミュニティが活性化するという目的とした具体的案を募集するのはどうでしょうか、かなり具体的な案、例えば、その地域のお祭りをベースにしたプランが出てくるかもしれません。子ども達の勉強のサポートや困っていることを合わせてコミュニティができれば、助け合いも出てきます。活性化のための具体案が出てくるとと思います。

(会長) 今言われたものもあるし、人材バンク以外のものも探っていく、検討していくというのはどうでしょうか。

(委員) 地域の人を集めてブレインストーミングをするのはいかがでしょうか。いい意見が出るとと思います。

(会長) 地域の活性化という点で、どんなことがあるか探ることも必要だと思えます。

(委員) 集める段階でどういう風に情報を流すのか、他人から言われるより自分からやる方がいいのかなと思います。

(委員) 先程の提案のいいところは、人を集めて自分でやるという形なので、いい提案も出るとと思います。

- (会 長) では、人材バンクは、市全体でやるということによろしいですか。
実施形態は①市直営でよいですか。
- (委 員) ～全員賛成～
- (会 長) 次に人材バンクの周知方法について協議します。
- (委 員) 市が提示するのか、公民館が提示するのか、回覧などにするかいずれでしょうか。
- (会 長) 全てだと思います。期間限定にします。
- (委 員) 後は窓口をどこにするかですね。
- (委 員) 公民館が一番無難かと思います。
- (委 員) 青少年センターもよいと思います。
- (委 員) 広報で集める。ファックスを流すなど。
- (委 員) 応募したらすぐ決まりではないと思います。
- (委 員) 何ができるかということと、その方の人間性を精査させてもらう必要はあると思います。誰でもなれますはよくないと思います。
- (会 長) 放課後子ども教室は市が中心になっていますが、各子ども会については、各地域で宣伝活動をやってもらうことが必要かと思います。私の地区の子どもの人数は少なく、子ども会の活動内容が分かりません。地域のお祭りで子ども会がやっているのは分かりませんが、普段は何をしているか分かりません。子ども会でもこういう制度ができました。助けてくれる人を募集しますということが広まれば、子ども会に入りやすくなると思います。
- (委 員) やらなければならぬという雰囲気があるから嫌だという人もいます。役員として成し遂げなければならぬとなると難しいですが、周囲に手助けしますという人がいると楽になります。
- (委 員) 小学校に宣伝活動の協力をお願いできるでしょうか。掲示板があるし、募集ポスター等を貼ることができると思います。
- (委 員) 小学校に通学している子の保護者は見ますが、そうでない人は見ないと思います。
- (委 員) 運動会等でおじいちゃんおばあちゃんが校内を回るところもあります。
- (会 長) 実際に人材バンクに人を集める方法でもありますが、こういう形で活動していますという宣伝も必要かと思います。そういう意味では、無理という人にも知らせるということで、体育館等にも掲示し、広く知らせることが大切です。
- (委 員) 自治会の回覧はどうですか。
- (委 員) コンビニやスーパーに貼らせてもらうのはどうでしょうか。

- (会 長) コンビニでスポーツやイベントのお知らせが貼ってあるのを見ます。
- (委 員) 実際にスーパーの掲示板にスポーツチームの募集などが貼られています。逆に言えばそういうところの方が目に入るのかと思います。
- (委 員) 児童館や自治会館などは若い人から高齢者までいろいろな人が来ているので見ると思います。
- (委 員) 目につくところに貼る。薬局にも貼ってあるところがあります。
- (会 長) 一番大事なことは、伊勢原は安心して子どもを育てられるというイメージに変えていかななくてはならないことです。子どもを育成するための人材バンクができたことを宣伝することは必要です。
- (委 員) 作ったけれど誰の目にも留まらない、日がたっても人が集まらないのではやる意味がありません。多くの人が集まるように人目につくところに貼りましょう。
- (会 長) では、次に進みます。その他として、事務局から子ども会、放課後子ども教室の現状と課題の説明を聞きたいと思います。まずは子ども会についてお願いします。

○事務局から、子ども会の現状と課題について説明

- (委 員) 課題にある役員をやりたくないというのであれば、逆に役員をやらなくてよいというようにして運営していくしかないと思います。
OB・OGが関わっていくから、参加してもらっただけでよいということになれば、参加率は上がると思います。
- (会 長) 自治会の中で子ども部という形で、運営しているところもあります。
- (委 員) 高部屋のメ引地区には育成会というのがあり、育成会が子ども会をバックアップしていて100%の加入率です。自治会がまとまっけてバックアップができています。
- (委 員) 自治会の話し合いに子ども会も参加していますか。
- (会 長) 話し合いに参加するのは自治会が関わるお祭りの時ぐらいかも知れません。
- (委 員) 例えば、夏祭りに子ども会に協力してもらいます。その時、子ども会に入っていない子ども達も夏祭りに来た時、子ども会に入っている人しか、おもちゃなどをあげない状況が出てきてしまいます。自治会としては、地域の子どものだから、平等に扱いたいとは思いますが、加入率30%ということではいろんな弊害が出ています。できれば、自治会の中に子ども部みたいなものを入れて、平等に子ども達を扱うような方法を考えていく必要があると思います。

- (会長) 高部屋地区で、子ども達を集めて実施した行事はどうか。
- (委員) 子ども会の会員が少ないので、広く子ども達を集めたことがあります。新しく子ども会の役員になった人は何をやったらいいのか、プレッシャーを感じるので、長く子ども会に関わった人が、アドバイスをしたり、引っぱっていく形にしたりするとやっている役員さんもやりやすいと思います。子ども会の役員に全部を押しつけるから、親も役員をやりたくないとなります。
- (会長) 子どもがいない人だと地域の子どもの会の役員になれませんか。
- (委員) そういう条件をなくして役員をやってくれる人が出れば、運営する側と出ている人が違うとなって運営はうまくいくと思います。
- (委員) 主体となるのがお母さん方でなく、人材バンクの登録者が主体になることで役員をやらなくて済みます。であれば参加するとなります。
- (委員) しかし、大事なことから保護者が関わる必要もあると思います。
- (会長) 地域の子どもの会活動がなかなか見えていません。お祭りの太鼓をたたいていることなどは分かります。ラジオ体操もやっていないようですから。
- (委員) ラジオ体操はやっていないところとやっているところがあります。
- (委員) 私の地域ではやっています。集会所がありますので、そこを10時から15時くらいまで開放して、どなたでもお寄りくださいと呼びかけています。湯茶の接待があり、ボランティアもいます。
- (委員) 横浜市のことですが、子ども会が巨大組織で毎年会員が増えています。自治会の会費で充分賄え、子ども会の会費を徴収せず、お祭りに来た子ども全員にお菓子を配ることができる地域もあります。
- (会長) スタッフの問題もありますが、スポーツ教室の方が親同士につながりや異年齢のつながりがあるから、入りたいということもあるようです。
- (委員) しかし、私の地域のスポーツ団体に入っている子どもの中には、お祭りは楽しいので、休んでも参加したいと言う子もいました。
- (会長) ある地区の子ども会ではドッジボール大会、新入生歓迎会などの行事があるようです。集まる機会があるとつながりができやすい。親同士もそうでしょう。楽しみにする事業は必要でしょう。
- (委員) 自分の子どもの立ち位置や普段の子どもの生活の様子を聞く場になるとと思います。生活態度においても親が見るのと他人が見るのでは、違うと思います。そういう場として、子ども会があるべきと思います。
- (会長) では、本日の協議はここまでとします。次回も引き続き子ども会と放課後子ども教室についての協議を行います。